



みんなが自分らしく

Q 同性カップルなど、2人の関係を「結婚に相当するもの」と認め、公的に証明するパートナーシップ制度を導入する地方自治体が増えてきています。2025年の人口カバー率(*)は次のうちどれでしょう？
 ※導入した自治体の総人口÷日本の人口
 ア. 36.5% イ. 55.2% ウ. 78.4% エ. 92.7%

出典) 渋谷区・認定NPO法人 虹色ダイバーシティ 全国パートナーシップ制度共同調査

性の多様性への理解を深めよう

エルジービーティーキュープラス
LGBTQ+

多様な「性のあり方」を表す言葉の頭文字をならべ、性的少数者のことを「LGBTQ+」(エルジービーティーキュープラス)と呼びます。LGBTQ+は約8%との調査※があります。

※出典「連合LGBTに関する職場の意識調査(2016)」
 「電通ダイバーシティ・ラボLGBTQ+調査2020」

ソジ-
SOGIE

すべての人が持つ性の要素を表す言葉。
Sexual Orientation
 性的指向(好きになる性)
Gender Identity
 性自認(自分の思う性)
Gender Expression
 性表現(あらわす性)



ソジトモになろう!

LGBTQ+の人が、誰かに自分のソジ-を伝えることを「カミングアウト」といいます。ソジ-は大切な個人情報です。また、本人の同意を得ずに誰かのソジ-を勝手に他の人に話すことを「アウトティング」といい、重大な人権侵害です。明石市ではどんなソジ-の人も大切にすることを「ソジトモ」と呼んでいます。多様なソジ-をみとめあい、カミングアウトしてもなくても、誰もが安心して暮らせる環境をつくっていきましょう。



支えあいともに生きる

Q 兵庫県で発行している障害者手帳はどの手帳でしょうか。
 ア. 知的障害者手帳 イ. 発達障害者手帳 ウ. 療育手帳

共生社会の実現に向けて

身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病などによって、生活するのに不便を感じたり、困りごとがある人はたくさんいます。

「その人の身体や心に障害があるから、できない」ではありません。建物や設備などの環境やこれまでのルールや考え方など社会のしきみを少し変えることで、誰もが暮らしやすい社会にしていけることができます。

障害のある人もない人も一緒に過ごせる環境をつくっていきけるよう、いろんな人の意見を聞くことが大切です。



障害理解の促進

障害のある人は、個々の障害特性について十分に理解がされていないことで、生きにくさを感じる場面があります。明石市では、障害のある人と障害のない人が一緒に参加するスポーツ活動や、障害福祉サービス事業所の見学ツアーを実施して、相互理解を深め、日常生活や社会生活での関わりができるような工夫をしています。

だれもが安心して働けるために

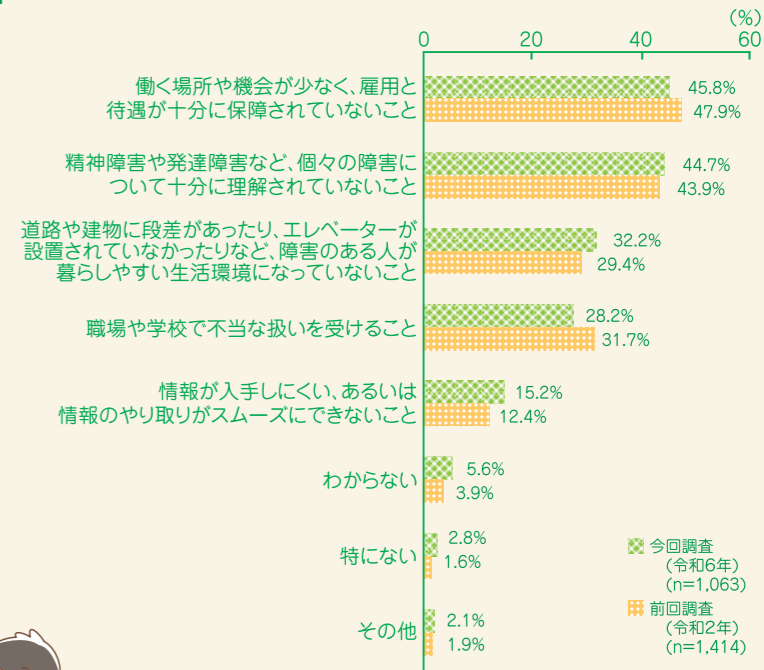
障害の有無にかかわらず、だれもが安心して働けるようにするために、障害者雇用促進法が施行されています。

一定規模以上の企業に対して、障害者の雇用を義務づけるとともに、障害を理由に雇用を拒否したり、賃金を不当に下げたり、昇給の対象から除外したりすることを禁止しています。

また、障害特性やそれぞれの場面・状況にあわせて、障害のある人と企業がはなしあい、どんな調整や工夫ができるかをお互いに考えることが大切です。



障害のある人の人権上、特に問題があると思うこと



※選択肢の一部について、前回調査から表現の変更あり